

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871200438		
法人名	有限会社 シンセイケア		
事業所名	グループホーム三輪		
所在地	兵庫県三田市三輪2丁目13番16号		
自己評価作成日	平成22年9月17日	評価結果市町村受理日	平成22年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hvogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hvogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成22年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と職員が自然体で日常生活をする。</li> <li>・ADLの低下予防や口腔ケアを重点的に行っている。</li> <li>・ホームの菜園を利用して花や野菜をつくり収穫し、自然とのふれあいを楽しんでいる。</li> </ul>
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう、ホーム全体で家庭的で馴染みやすい環境作りに取り組み、利用者がこれまでに培ってきた地域社会との関係を大切に支援を実践している。利用者の様子やケアの実施状況はケース記録に残すと共に、状態に応じ記載している「気付きノート」も活用し、職員間での情報共有を徹底し適切な対応に繋げている。ホームの前には広場や菜園があり、利用者は四季の移ろいを身近に感じつつ、年間を通じて開催される夏祭りや餅つき等で地域住民との交流を楽しんでいる。今後も地域に根ざし開かれたホームとしてし、更なる地域との交流・連携の拡大を目指している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民の一員としての生活を支えることの理念をつくり、職員全員が共有、理解し、具体化に取り組んでいる。	理念は、地域密着型サービスとしての役割が反映された内容となっており、ホーム内の分かりやすい箇所や職員休憩室に掲示されている。日常の会議やカンファレンス・研修の中で、職員は理念を確認し合い周知を図っている。また日常の業務においても「申し送りノート」や「気付きノート」等を活用しながら理念を意識したケアが提供できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事である夏祭り、餅つきなどには、地域の方にも参加の呼びかけをし、また地元の祭りや、「ふれあいの集い」など地域の行事に積極的に参加し、交流を深めている。	利用者の地域での暮らしを支える事を目指し、地域との連携を大切にしている。近隣の祭りへの参加、神社への参拝、民生委員の協力のもと、地域の「ふれあいの集い」での交流の機会等、積極的な関わりが継続している。ホームに隣接した広場での夏祭りやいも煮会など年間行事に近隣住民を招待し楽しみを共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に散歩や買い物時の挨拶や事業所への気軽な立ち寄りへの声かけなど、地域に開かれた事業所として伝え、同時に認知症の方々への理解と支援の方法の周知に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の状況、介護計画の内容、各評価の報告などの実態について話し合いをもち、いろいろな意見をもとにサービスの向上に活かしている。	会議は2カ月に1回定期的に行われ、利用者代表・家族代表・市の職員・民生児童委員・連合婦人会長等の参加がある。ホーム行事の実施状況・第三者評価結果等を報告し、質疑応答がなされている。計画作成担当者が参加し介護計画等についての説明が行われ、利用者の現状をより具体的に理解してもらうよう取り組んでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での連携はもとより、指導・調査での応答、市の相談員派遣事業の受入れなど協力関係を築いている。	運営推進会議に市の担当者が参加し積極的な情報交換がなされていると共に、グループホーム連合会での交流の機会もあり、協働関係が継続されている。	地域包括支援センター主催の研修や地域医療関係者の会議等に積極的に参加し、協働関係を築きながら地域貢献活動の拡大に努めている。今後も地域に開かれたホームを目指し、市から派遣された介護相談員との連携が継続されていく事を期待する。
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束の禁止」についてのマニュアルを定めているほか、再三にわたり全体職員研修には説明を行い、全職員に周知している。	身体拘束のマニュアルを整備し、職員の意識付けの為に定期的な研修を実施している。日常のカンファレンスの中でも話し合わせ、スピーチロックについて正しく認識できるよう取り組んでいる。利用者の心身の状態の悪化等により安全面に配慮して施錠する場面があるが、極力開錠できるよう努めている。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」のマニュアルを作成し、職員研修時などを通して全職員に周知している。連絡ノートからも確認を行っている。	虐待の防止や虐待を見つけた場合の対処について研修で理解を深め、マニュアルの策定により職員への周知徹底を図っている。職員のストレスや疲労の蓄積が虐待につながる可能性も理解し、職員の勤務体制を点検し、余裕を持って働ける環境作りの充実に努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修には、職員が交代で参加することとしている。受講者は直近の職員研修で報告する。	現在制度を活用している利用者はいないが、地域包括支援センター主催の外部研修等に参加し、制度の理解に取り組んでいる。事例検討の機会を設けたり職員アンケートを実施する事で、個々の職員の意識を高めるよう取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、利用契約書・重要事項説明書などをもとに、十分に説明し、質問を受け、理解・納得をもらっている。	契約に関しては、重要事項説明書・契約書等をもとに利用者・家族に詳細な説明が行われている。特に退去に関する事や重度化への対応については、利用者・家族に不安が生じないよう、契約時の説明と共に入居後も適宜話し合えるよう体制を整えている。重要事項説明書は半年に1回は見直していくよう取り組み、変更の必要性があれば家族への説明の機会を設けている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等との面談、家族会での意見等をもとに改善に取り組み、運営推進会議には、この意見を提示し、会議で出た意見などを運営に反映させている。	家族面会時に意見を出してもらえるよう働きかけると共に、毎月1回家族に手紙を送付し、利用者の現況を報告している。運営推進会議や年に1回開催する家族会等で率直な意見交換ができるよう配慮している。出された意見・要望は職員間で話し合わせ、状況に応じて記録に残し、今後の介護サービスの質向上につなげている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンスや研修時を通して、職員の意見や提案を聞き、採用された意見等は実行している。	日常のカンファレンスや研修の中で、個々の職員の意見や要望・提案を聞く機会を設け、業務改善に結び付けている。「意見メモ」を活用し、職員の声を効果的に幅広く取り入れる働きかけもなされている。職員の勤務体制や異動については、利用者への影響を少なくするよう努めると共に、職員の考えも尊重し働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績などから常勤者への任用、処遇改善交付金を含めた給与の改善を実施している。また代表者・管理者は、職員の悩み、不満などをいつでも相談できる状況をつくっている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では月例のスタッフ会議をはじめ、定期的な全体職員研修を実施している。外部研修についてもリーダー研修をはじめ、各種の研修に参加するよう勧めるとともに、各種の資格取得についても一部費用負担も含め推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者の交流会として、グループホーム連絡協議会を立ち上げ、情報交換など定例会議を行い、全職員対象の勉強会も予定している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初から、主体としての本人と向き合い、傾聴し、気持ちを受け入れ、本人との関係を築きながら信頼関係ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との相談から、まず必要としている支援を見極め、同時に他のサービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「スタッフは入居者とともに生活する」ことは基本理念であることから、本人とより時間をかけ、本来の個性や能力を引き出せるなど関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のこだわり、苦しみ、喜びを受け止め本人の生活をともに支援していく関係を築き、職員はあくまで本人と家族との支援者であり、よりよい関係を築いている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきたいろいろな関係を大切に、継続できるように支援している。面会、外出宿泊(家族付き添い)は自由で、また月一回は、家族が来られる機会をつくっている。	家族の訪問を勧めるとともに、近隣の友人や過去に親しくしていた人達等の訪問の機会もあり、面会がスムーズにいくよう支援している。職員は利用者のこれまで育った社会環境や関わりのあった方々を把握し、今までの交流が継続していくよう支援体制を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がその場で機転を利かし孤立をさける、また食卓の配置換え、散歩・入浴時間の変更などの配慮をする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の不安などに対するフォローや転居先施設の相談員との逐次の連携、機会をつくり本人との面会を実施している。また必要な時の手紙でのやりとりなど支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を傾聴し、行動に寄り添い、思いや好みを把握している。	入居時の初回面接にて本人の生活環境や思い・意向を把握し、日常のケアに活かしている。また、日々の関わりの中で、利用者が思いを表出しやすい雰囲気作りを大切にしている。ケアは担当制を基本としているが、利用者の状況に応じて職員全体で関わられるよう情報を共有し、利用者一人一人の思いに適切に対応できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や経過等を記入した利用者票を提出してもらい把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の行動や心身状態を観察しながら、できること、したいことまた潜在能力を引き出せるように努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録のほかに、利用者一人一人の気づきノートがあり、担当者会議に反映してその人に必要な介護計画をアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人の変化に応じて見直し作成している。	入居時のアセスメントをもとに職員間で話し合わせられ介護計画を作成している。計画に沿ったケアが行われているか日々振り返られるよう様式を整え記録に残している。定期的な見直しとして三カ月に1回計画を点検し、また、利用者の状態変化に応じて随時の見直しが必要な場合は迅速に対応している。変更後の介護計画は利用者・家族に説明し同意を得ている。日々のケアの実践状況は、ケース記録や申し送りノートの他に、個々の利用者の現状を的確に把握する為に「気づきノート」を作成し、職員間での共有を確実にしていくよう取り組んでいる。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録、気づきノートで情報を把握し、よりよいケアに向けてこれらの情報を共有し、必要に応じて担当者会議を開催し、介護計画書の評価、見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望に添った買い物や散歩などの外出支援も含め、柔軟的に臨機応変的に取り組んでいる。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティアの協力の下に、地域行事への参加、当ホーム行事へのお誘いなどを含め、地域の一員としての安全で穏やかな暮らしを支援している。定例的な活動を含め、いろいろな方面のボランティアを受け入れしている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族と今後の継続的な医療について確認をしている。今までのかかりつけ医を希望される場合は、家族の協力により受診している。事業所の協力医療機関では、2つの医療機関による月2回づつの往診を実施している。	内科・心療内科・歯科の定期的な往診が実施され、利用者の健康管理が適切に行われている。利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診については、付き添い等家族の協力を得ながら意向に沿えるよう取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診や入院時また体調不良時などの変化を介護職員が把握し、口頭または文章にて確実に伝えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、家族とともに事業所のスタッフが付き添っている。病院へは介護情報書を提出し、情報交換を行っている。入院中では家族と十分な連携をとり、病状や治療方針を確認すると共に、退院後も安心して過ごせるよう準備は欠かさない。	利用者の入院時には、職員が付き添い情報提供を行っている。医療機関とも面会の機会等に情報交換を行い、スムーズに退院できるよう取り組んでいる。家族等と話し合う事で、利用者・家族の不安の除去に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化に伴う看取り指針」について説明、同意(署名捺印)を頂き、共有認識をしている。	重度化に伴う看取り指針を策定し、利用者家族に説明している。利用者の状態変化に応じ、家族・担当医・職員間で話し合いを持ち、家族の思いに出来る限り沿えるよう取り組んでいる。外部研修への積極的な参加や、グループホーム連絡会での合同研修で、重度化に対する対応について学習の場を持ち知識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「非常時のマニュアル」、非常時の連絡方法」など各宿直室に常備している。実践力を身につけるための消防訓練などの実地訓練を実施している。また救急講習会や防火研修にもスタッフが交代で参加している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の消防訓練を行い、消火器や避難経路、避難場所への誘導等の実地訓練を実施している。消防訓練の際には近隣地域に連絡し、協力をお願いしている。	災害時の対応について連絡網やマニュアルを作成し、また、火災通報装置専用回線を備え、消防署との連携が整備されている。年に2回以上の消防訓練や消火器等の扱いの訓練を行い、迅速な対応ができるよう取り組んでいる。近隣住民との日常での交流を深めると共に、運営推進会議においても協力を呼び掛け、災害時での連携体制を整えている。	



自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重やプライバシーの保護には、全職員が十分に認識・共有した上で、一人ひとりへの言葉かけやまた身まもりを通して実行している。	理念の中に、高齢者の尊厳とプライバシーの保護を掲げており、利用者への言葉掛けや対応に配慮したケアを行っている。マニュアルの整備や接遇研修で学ぶ機会を設け、常に意識し合うよう取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話や表現を傾聴観察し、本人の希望、好みを把握している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに毎日のやりたい事を聞き、無理強いすることなく、希望に添えるよう心がけている。なお、リハビリ体操は全員が行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、下着の着替えと洗濯、2ヶ月に1回理容師(ボランティア)による髪の毛のカットそのほか化粧水、ハンドクリームを使用している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けをし関わることによって、食べることが楽しみとなるように配慮している。	ホームの菜園で採れた野菜や地元の特産物を利用し、季節感を大切に食事作りがなされている。利用者も体調に応じて配膳や片付け等に関われるよう支援している。利用者の誕生日には、個々の希望を採り入れたメニューを工夫し、また、外食の機会を設けるなど適宜変化を持たせ、食にたいする楽しみが増すよう取り組んでいる。利用者の食量や水分摂取量は記録し、体調管理の参考としている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスのとれた献立(カロリー表示あり)を作成している。水分補給は、1日1,000mlを摂取できるよう記録を取っている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の不潔と機能低下による嚥下障害や誤嚥による呼吸感染もあるため、歯科医、歯科衛生士と連携した適切な口腔ケアに努めている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけや誘導する。日中は、リハパンや尿パットの使用をできるだけ控えらるるよう支援している。	利用者一人一人の排泄習慣やリズムを把握し、排泄の自立に向けた支援ができるよう取り組んでいる。個々の排泄状況を記録し、適切な声掛けや対応など前誘導を工夫している。食材の工夫や個々に合った体操・運動を無理なく取り入れ、便秘の予防に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレッチ体操や散歩等運動も心がけ、個々に応じた予防対応にも取り組んでいる。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日程上曜日を決めてはいるが、個々の状態に応じて曜日以外も可能としている。	週に2回の入浴を基本としてはいるが、利用者の希望を聞き個別に対応できるよう配慮している。利用者が気持ちよく入浴できるよう職員間で話し合い、足浴や部分清拭を随時取り入れたり、利用者への呼びかけや対応を工夫する等、入浴を嫌がられる事のないよう取り組んでいる。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一緒に飲み物を飲んだり、話をしたりコミュニケーションをとり、安心して眠れるよう支援している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての情報を共有し、服薬と症状の変化など記録をとり、症状の確認を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを活かせるよう日々の中に取り入れ、張り合いや喜び、自信につなげるよう努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	菜園での日光浴、散歩、買い物や外出に出かけることもある。展示会や地域のイベント、家族との外出の機会を心がけている。	ホームは利便性の良い地域にあり、日常の散歩・近隣スーパー等への買い物・外食等気軽に出かけられるよう取り組んでいる。また、年に1回のバス旅行は利用者が楽しく安全に参加できるよう、家族・職員が連携し毎年継続されている。利用者の体調に応じて、ホーム前の広場での日光浴も適宜取り入れている。	今後、更に外出の機会を充実させていく為に、家族の協力を得ながら個々の利用者の思いにそった外出支援ができるよう計画している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談した上で(ただし小遣程度) ・本人が所持する、レシートをノートに貼る ・財布の置き場所を忘れる場合があるので、買い物時に財布を渡す ・手持ちがない時事務所で立て替えをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがき、切手などは事務所で用意している。ポストへは、散歩時に自分で投函する。事務所の電話は、常時使用できる。(公衆電話は設置していない。)		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの菜園で作った四季の草花を玄関・居間・洗面所などに飾ったり、廊下の壁には習字の展示やホームの行事写真や絵画・ちぎり絵を貼るなど談笑の話題に上るように配慮している。	共有空間の各箇所に、ホームの菜園で育てた花を飾り、廊下には利用者の作品や行事の写真を掲示する等、四季の変化や家庭的な雰囲気を身近に感じられるよう工夫している。利用者と共に廊下や居室の清掃が行われているが、利用者にも無理が生じないよう、状況に応じて職員がさりげなく支援しており、常に清潔が保たれた環境が整っている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の空間等を利用し、ソファや椅子を置き、自由にくつろげる場所を確保している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から出来るだけ今までの使い慣れた物、好きな物の持ち込みをお願いしている。	利用者の希望にそって家具や装飾品の持ち込みを支援し、寛げる空間作りとなっている。入口に暖簾を掛けている居室があり、利用者の思いを尊重しプライバシーに配慮された対応がなされている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・洗面室など日常的に使用する場所を分かりやすくしたり、また下着を洗いたいと願う方にはトイレの奥の洗い場を利用し、石鹸も用意しておくなど配慮している。		